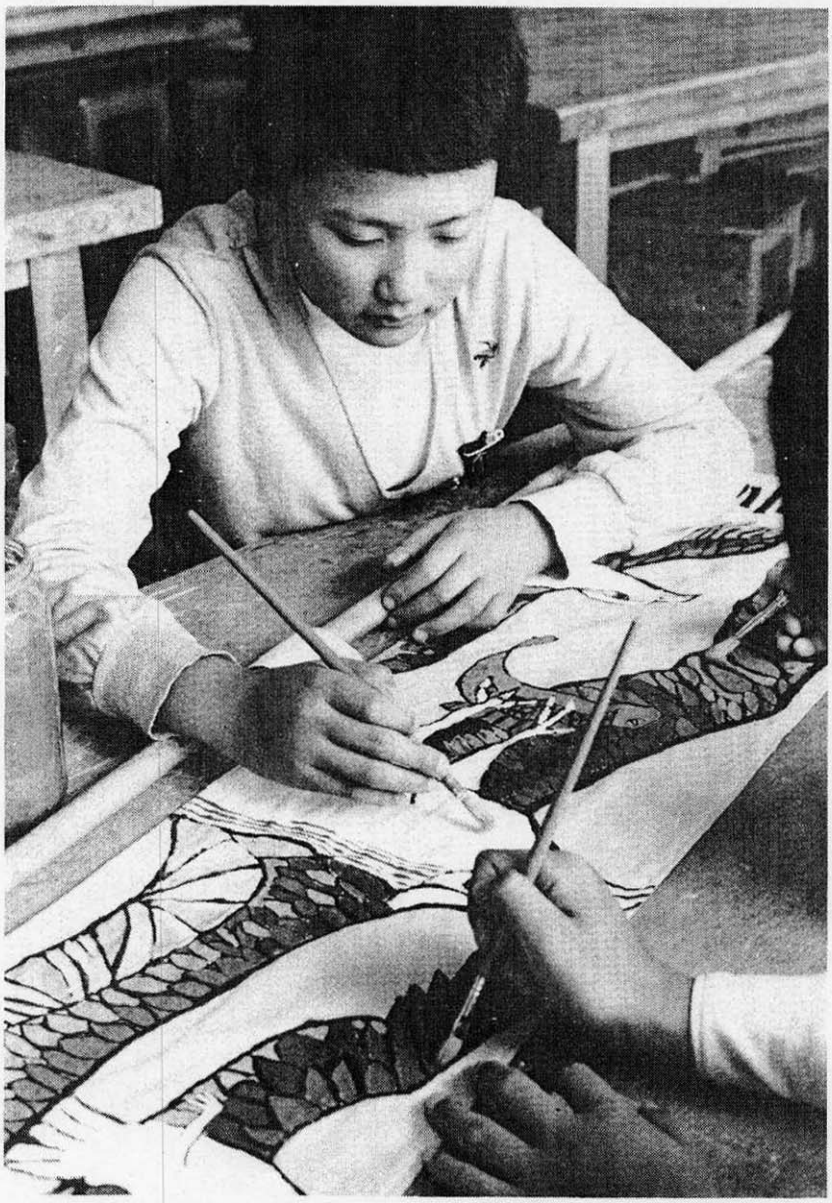


（制　作　　連尺小）

書則一字已見其心。

（唐・張懐瓘「文字論」）

書は則ち一字にして已にその心を見わす。

「書」というものは一字かくだけで人の心を表現するものである。「文則数言及成其意。」と対をなす語。

神谷　葵水

昭和48年11月1日
編集・発行
岡崎市教育委員会

パンドーラの筐

鈴木　幸生

「…かくてゼウスの神は、人類最初の女としてパンドーラをエピメーテウスの許におくった。パンドラーは神々の贈物として一つの手箱を持ってきたが、蓋は固く封がしてあり、開けることは禁じられたいた。ある日好奇心に堪えかねた彼女は、ついに禁を破ってそっと蓋を開いて見た。すると中からもやもやと怪しい形のものが一パイ立のぼり、四方に散らばっていった。それはあらゆる罪悪であり、災厄であった。以来人類は天災、人災、悪疫、病苦、死別と、数限りない諸悪災禍が世に横行し、日となく、夜となく襲ってきて憩の間もない有様となった。

唯一つ空しい「希望」だけがぐずで思切りがわるいため、まだ外に出切らず箱の中に残っていた。怪しい気配に驚きあわてたパンドーラは急いで蓋をした。そこで人類の手に残ったのは、この僅かな「希望」だけとなった。」

（ギリシャ神話よりの抜粋）

抄録が長くなりましたが、これが今年の二科展出品作のテーマです。とてもこの寓意をお伝え出来るような作品ではなく不充分不満足なものとなってしまいましたが、ここでは私の作品解説をするために書いたのではありません。全く人間の持つ弱点と現世の様相があまりにまざまざと予言されている点に気付いていただきたかったからです。絶える時のない天災、戦争、公害、交通事故、汚職、スパイ、殺人、麻薬、セックスの氾濫まさに百鬼夜行どころか、万鬼昼夜行の有様です。こうして私が原稿用紙の一枡をうめている間にも、何人の人が死んでゆくのでしょう。航空機は墜落し、乗とられ列車は衝突転覆し、工場は爆発し、最高学府の校内では内ゲバで学友が血を流して死ぬ。ロッカーからは相ついで嬰児の遺棄死体が発見され、ねたきり老人はみとる人もなくひっそりと一人で死んでゆく。日毎に空も土も食物も人の心もよごれ果ててゆく。こんなことを書いていたら果もきりもないでしょう。まさにパンドーラが未知のものを知るために蓋を開いたように、人間は他の動物の持っていない智恵というもので地球上を支配してきました。そして三千年、知識の集積が現代文明を築き上げました。それで人類は幸福になったでしょうか。平和になったでしょうか。まさに人類は自分の手で自分の滅亡のために懸命の努力をしてきたかのようです。かって美しかった地球という星も、自然の老化と人間の手によって、その破滅を早めています。この末期的症状の中にあっても、自分の身に目に見える直接の被害を受けない限り、秋の紅葉をめで、夜のネオンに酔っている人がいかに多いことでしょう。この鈍感さは救いがたいものとあきらめるより外仕方のないものでしょうか。何とかしなければと考え行動している人もまた多くいるのではないでしょうか。そこで我々の手に残ったものは、ひ弱で無力な、しかし可能性をもつ「希望」という名の嬰児です。一人でも多くの人が未来をよくするために何としてもこの嬰児を、力強く正しいものに育てあげてゆくより外はありません。それをなしとげるのはあなたです。あなた自身の手です。それが教育というものだと信じます。胸に溢れる想いが多すぎて、大人気なく悲憤慷慨調になってお恥かしいのですが、本当はもっと大声で叫び続けたいほどです。

「昨日またかくてありけり、今日もまたかくてありなん。この命、何をあくせく明日をのみ思いわずらう」とすましていてよいものでしょうか。私は私で出来ることを命の限り行なう。あなたはあなたで出来ることをほんの一歩でもよい精一パイやって下さい。心から期待いたします。

では、今日唯今より――。

（二科会会員）

いまはむかし

修学旅行

国民信仰昂揚のための修学旅行

小学六年は、「内宮・外宮の参拝と徴古館の見学、五十鈴川附近の雄大な自然美や二見浦の見学」と、伊勢神宮を中心として一泊二日の旅行を実施した。

国鉄駅に近く交渉に便利であるということで、岡崎小学校長が、代々旅行の世話役として労をとっていたとのこと。一方、受け入れ側でも、土産店や旅館の斡旋に業者が入り乱れて大変だったようである。高等科は二泊三日の関西旅行が多く、神戸の湊川神社参拝も重要なコースの一つとされていた。

修学旅行も中止となった終戦前後

昭和16年、太平洋戦争に突入。そのため伊勢神宮への日帰り旅行となった。19年から23年までは、旅行どころではなかった。つい最近、20年の根石国民学校卒業生が、行けなかった伊勢への修学旅行の夢を二十八年振りに実現させたという。

数校合同から連合修学旅行へ

昭和24年から修学旅行が復活した。それは米をさげ、教師は懐に現金を抱きしめ、一般客と混乗の旅行であった。コー

文化活動の中で

共に歌い合える喜び

――岡崎グリークラブ――

岡崎グリークラブ（男声合唱団）の研修会場は、九畳一間の借家である。こんな狭い会場へ、現職教育を終えたばかりの連中が、夕食もとるやとらずで集まること十一年間。その魅力といえば、人間としての暖かい集いにほかならない。

合唱研修の場が即、教育の討論、指導案作り、問題児の指導、あるいは人生相談の場へと早変わり、時間のたつのに気づかないこともしばしばである。

合唱の心は団員相互の心の理解である。こんなところに岡崎グリークラブの魅力がある。

私たちには大きな課題がある。それはマスコミの氾濫に犯された音楽が、明日に生きる子どもたちに、どう受けとめられているか、ということである。

岡崎には、優秀な指導者や演奏家は多くいるが、自己研讃の発表演奏会が多く聴衆不在のプログラムが組まれているのが現状であると思う。

私たちには荷が重すぎるが、文化都市岡崎の小中学生、高校大学生、市民のために、美しい、楽しい音楽の輪を広げようとしているのである。

昨年の結成十周年記念演奏会には、市内の先生方や、ご家族の方のご来聴をいただき、ことばではつくせない感激を味わった。

子どもたちが明日の若者に成長し、共に歌い合える日を夢見て、今夜も私たちは練習に励む。

（美川中　小田　紀夫）

早春の木々の芽ぶき、あかね色の夕映えの美しさ……誰もが目にする自然への関心を、また、日々の営みの中での心の揺れ動きを留め置きたいとの想いが心の片隅にうごいていたとき、勧められて短歌の会にはいりました。

その会の会員は二十数名で、わたしと同じ想いで入会した多くは市内の先生とその知人で、月一・二回の例会を持つようにしていましたが、多忙なため途絶え勝ちでした。

例会では、水甕の同人山本先生、形成の稲石先生の格調高い作品を鑑賞するとともに、会員の作品を互いに批評し合いその中で好ましい歌を選び出し、最後に山本先生に総評をしていただきました。

また、初心者が多いので、気楽に批評し合い、それが的はずれであったり、噴き上げる心のままに夜のふけるを忘れて書いた作品も、ひとねむりすると表現過剰でおぞましく思うことがしばしばであるというなど、共通な体験も話題にされたりもして、和やかさと厳しさの中である種の充実感を覚えました。

自分との対峙

――短歌の会に学ぶ――

自然を詠むとき、自然の中に生きる人間の心の陰影がでるべきであることや、心を語るにしても、身辺の具象的な自然物に托することを学びました。そして、短歌を詠むことは、自分との対峙であり短歌を詠むには、つねに自分の目を新鮮にして、みずみずしい感覚を持つことがたいせつであることに気づきました。

（広幡小　松井　筆埜）

スは、学校独自で駅と交渉して決めた。当初は、PTA役員も参加したので、接待役を兼ねた先生方の気苦労は大変なものであった。これらの問題解決策として数校合同の旅行が計画実施され、やがては小学校長会のもとに、臨時電車「こまどり号」を借り切る現在の岡崎連合へと発展していったのである。

従来の伊勢志摩方面から京都奈良方面へコースを変更させたのは、伊勢湾台風であった。市内二十一校の「特別措置として実施された京都奈良コースはよかった」という声は、父兄を対象とした世論調査へと進展した。コース変更賛成九六・七％、不賛成三・三％であった。その結果、30年に教育委員会から通達された「伊勢地方、または隣県」という枠は取り除かれ、今日に至っている。

中学校は、当初関西方面が多かったが27年頃から関東方面へと変わっていった。35年、教職員の切実な願いに答えて、修学旅行専用電車「こまどり号」が誕生した。東海三県の中学生を乗せた電車は、春秋富士の裾野を走っている。

これらの校外指導充実のために、修学旅行指導計画編集・車内放送・映画「車窓に学ぶ」の制作等が精力的になされてきた。しかし、次のような声もある。

「ガイドまかせの旅行ではなく、教材を見入る児童・生徒たちの前で、自分のことばで説明出来る教師、時には曲がり角を間違える教師であってほしい」と。

（佐野与一郎・今井秀男・浅井修先生のお話から）

たしかなる十年の歩み

造形 おかざきっ子展

心と心のふれあう広場に

—第一回昭和三十九年—

『きょうも岡崎市内のあらゆる学校で美術を通しての教育が営まれております。子どもたちは、この一時間、一時間に、自分の心で、自分の手で、のびのびと絵をかき、物をつくり、すばらしい芸術にふれて成長しています。人生で一番大切なこの時期、この一時間がどのように営まれるかということが、どんなに大切な意味をもっているかを、わたしたちははっきり自覚し、この一時間をより充実させるよう、励ましあってまいりました。

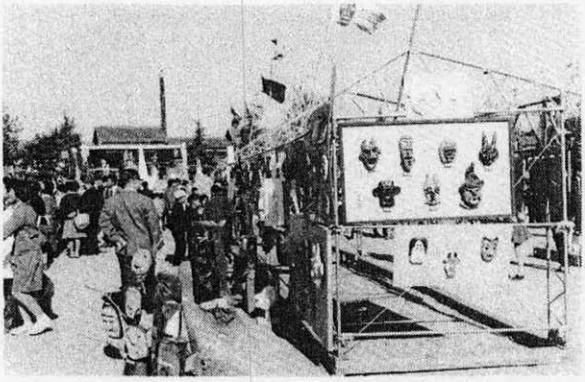
ここに、その作品の中から野外展にふさわしいものを発表し、市内のあらゆる学校の子どもたちに、互いの作品を通じて、心と心のふれあう広場を提供し、父兄のみなさんに、子どもの造形力のすばらしさを理解していただく機会にしたいと考えております。

そして、あすからの図工・美術の時間の鐘を、より高らかに響かせていきたいと念じてやみません。』

これは昭和39年、第一回のおかざきっ子展の宣言といったものである。

長年、先輩の方々があたためてこられた野外展は、「一時間、一時間の授業の中から生まれた作品を展示する」「発表への経過の中で、教師相互の研修と和をはかり、一層の向上をはかりたい」という二点が目標であった。

第一回展はまさに創世期！、作品の内容、展示方法、会場構成、運営など「造形おかざきっ子展」と名称を決めるところから、いくたび話し合いを重ねたかしれない。ただ「やるのだ」というエネルギーに支えられて歩みはじめた。



十一月二十二・二十三日の篭田公園は晩秋の陽光があふれ、会場に集まった人も作品も、予期せぬものばかりだった。門を入るなり、自分の作品をさがしもとめて走りまわり、見つけたときの誇らしげな顔、これが子どもの作品かと驚きの目をみはる人たち、篭田公園は突如誕生した造形の森であった。

仕事から生まれた和

—ブロック別展示、第四回—

この日が近づくと、いろいろな声が聞こえてくる。「行事としてだけのおかざきっ子展にしてはならない」「せっかく児童の作った作品を運搬中にいためてしまってはならない」「雨や風に耐えるくふうをしなくては……」など、マンネリ化を恐れ、日常の学習の中で生まれた作品を大切にしようとする、わたしたちにとっては、毎回、毎回が勝負だった。

第四回展をむかえるにあたって、ひとつの試みが提案された。それはブロック活動を重視し、ブロック活動を母体にしようとする試みである。

前回まで、学校別展示であったのがブロックごとに創意をこらして展示をする方法になった。ステンドグラスの中をすべるすべり台、小鳥のいっぱいとまった回旋塔、花に包まれたブランコ、人形が

回想記

頬につたわる涙

第一回展は終わった。成功感と虚脱感につつまれながら、テントの中に歌声の輪ができる。みんなで歌う「かあさんのうた」みんなの頬に大つぶの涙がつたわる。お互いに手をにぎり、肩をたたき合う。おかざきっ子展をやってよかった…。

夜来の風雨、作品を直撃

野外で耐えうる作品と展示を配慮したつもりだが、まだ、あまかった。夜半から強まった風雨が、作品を吹き飛ばし、塔を倒した二回展。しかし、みんなの集まりは早かった。ねまきをカッパで包んで抗を打つ。スコップとバケツが走り回る。〝あすは子どもたちがやってくるんだ！〟

床屋が銭湯に早変り

三万有余の入場者があった三回展。夜のテントは大はしゃぎ。飲むにつれ、歌うにつれて裸族の続出。ボディペンテングはおてのもの。からだじゅうぬりまくったがあたいへん……。近くの理髪店に飛び込んでおたのみ申す「おじさん！

鈴なりの雲梯、公園の遊具はブロック活動の集約であった。

この四回展を通じて、わたしたちは、ブロック活動の意味を知った。「教師相互の和をはかり……」ことばだけではない。

大きな冷蔵庫の中にいるような深夜の会場で、最後の展示の仕上げをすめるとき、同じ仕事をする者のみに通いあうものが実感としてつかめた。

「一つ釜の飯を食う」といったことが実際に行なわれ、ますますそのつながりは深まってきた。

緑を求めて東公園へ
―十周年記念展―

十周年をむかえるにあたり、造形展のあり方を再検討し、作品の内容、展示、構成など、さらに飛躍を遂げようと、会場を緑深い東公園に移すことにした。

長い歩みの中に、ややもすると、初期の目的を見失ない、ある点で妥協し、手軽るにきりぬけてしまうような気持ちが起こっているのではないか。見ばえを考えて、素朴な作品、たくましさのあふれる作品を生む指導をしていないのではないか。交通事情の変化は町のなかでの仕事に制限を加えつつあるなどと、考えられたからである。

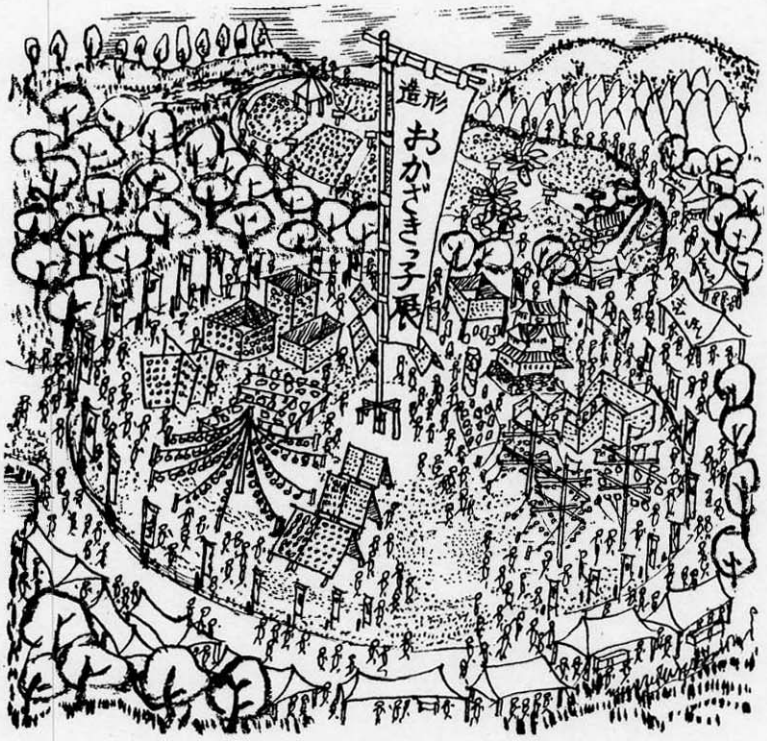
自然の地形が残り、多くの樹々に囲まれた会場へ移るにあたり、市内五十校三万八十八人のおかざきっ子の全作品を展示しようとしている。

ひとり残らず参加するおかざきっ子展、広々とした会場で、自然の中に溶けこんだおかざきっ子展を、異常なエネルギーでおし進めようとしている。

子どもの成長を願う方々の協力で、すばらしい造形展ができると信じている。

そしてこれから、いつの日か市民のみなさんが、ある一日、東公園に集り、そこで制作し、展示をし、造形展が行なわれるような日さえ夢見ているのだ。

（井田小 早川円浄
広幡小 玉越健彦）



頭はいいで、からだ洗って！」全国ではじめてのケースとか。ともかく床屋の主人に多謝。

珍客万来、夜のテント

会期中の夜警は楽しみの一つ。実際に作品の被害はほとんどないのがうれしい。夜の訪問者とおかざきっ子展を語り、人生を歌う余裕が生れる。巡回中のおまわりさんが寄ってくれる。近所のすし屋のおかみさんは毛布と夜食を。あるご父兄は関東煮を。その他、市内の先生方の陣中見舞。労務者風の酔っぱらい。だれの知人かホステスさん。そういえば、酒乱の思想家もいたっけ……。

先生も木から落ちる

会場一ぱいにはためく「わたしの旗」の五回展。展示時にA先生木から落ちる。造形教育には、日ごろから心身の鍛練が必要。

「おかざきっ子人形」の人気バツグン

二回展から続いているおみやげコーナーの「おかざきっ子人形」毎年四百個以上が飛ぶように売れる。手づくりの味と独創的なデザインが人気の秘密。

ブタじる・タクアン・めし

おかざきっ子展の定食として六回展から今日に至る。会期中のエネルギー源。

第九回展は学制発布百周年記念展

各校一点の「教育百年のあゆみ」の作品は印象的な課題作品の一つ。今年はおかざきっ子展も十周年記念展。もうすぐ一回展出品者の息子が出品する時がくる。

サークル活動

三か月でマスター
――エレクトーン・サークル――

「来週は、しっかり練習してくるかな。」

「一週間って早いなー。」

「もう金曜日が来たか。練習はしてないが、冷汗をかいてくるか。」

こんなことをくり返しながら三か月も過ぎると両手、両足が動き、曲が弾けるようになるのが、このサークルである。

現在二十三名の先生方が、毎週金曜日夜、松本町のエレクトーン教室で練習に励んでいる。

今から十年前、エレクトーンという楽器が開発され、普及されようとした当時、少なくとも中部地区の教員サークルとしては、岡崎が最初であったと記憶している。

その後、中断はあったものの、このサークルでエレクトーンにさわられた先生は、河合中学校長太田先生をはじめ、百人を上まわるのではないかと思う。

趣味で、あるいは必要にせまられた先生たちの集まりで、たいへん流動的なサークルである。またユニークな存在として注目されている**バロック音楽研究会**、**管楽器研究会**などもある。

（甲山中　鈴木聡一）

現代化をこそ
――算数・数学読書会――

「1/3と1/4とどちらが大きいかは場合によってちがう。という子をどう指導するか。」

「関数の定義は、生徒にどう与えたらよいのか。」

こんな話題が発展して、指導のあり方や系統性、はては内容の本質論にまで話が進む。やがて人々も集まり、本日の読書会が始められていく。

教育の現代化の叫ばれる中で、算数数学教育も大きく変革をせまられている。記憶する学習から創る学習へ、教える授業から考えさせる授業へと。私たちは算数数学指導のあり方を問いなおし、また、自らの深化を求めて、いつからともなく読書会を始めた。時には教育大の鈴木八郎・柴田録治両先生の指導も受け、現代化の新しい考え方にもふれることができた。昨年はサークル活動助成金を受けて授業研究・講演会開催など行ない、研究が一層深められもした。

本年度は「事象を数理的にとらえる能力の育成」をテーマに、読書と研究紹介による理論研究や指導案検討を行ない、また時には栗田稔著「関数と写像」の読み合わせを行ない、毎月一回土曜日に会を持っている。

私たちは岡崎の算数数学教育の進展を願い、地道な研究活動を続けている。

（大樹寺小　野村正己）

図書紹介

張金界奴本蘭亭叙　王羲之

清雅堂　1,100円

書道に志して、こつこつと法帖を習った私にはやはり古法帖が私を育ててくれた大切な本といえるであろう。その中でも何度も習った雁塔聖教序、蘭亭序温泉銘、十七帖、灌頂記、風信帖、争座位帖、左纐叙、曹全碑等は、大好きな法帖である。

空海は、王羲之と顔真卿の書に私淑し、菘翁は緒遂良と顔真卿を主調にして円筆法を最高度に生かして、八十六才で死ぬまで勉強を続けた。共に後世に残る偉大なる書を残した。古典を鑑賞したり臨書することは楽しい。

（福岡中　青山　薫）

眠られぬ夜のために（1.2部）

ヒルティ

岩波文庫　当時各冊40銭

「この書にめぐり合いしよろこびは無上なり。それは唯一の慰安、友であり師である。世の不遇なる子らに一読させたきものなり。23年元旦」

この本のとびらにこんな朱書きが残っている。

「21．8．16読了す」

ともある。いたるところに赤、黒、青の傍線や書き込みもある。

20才をちょっぴり出た青二才の、いささか力みすぎみではあった当時がなつかしい。

一文に「常に大なる思想に生き、瑣事を軽視することに努めよ」と。

（羽根小　足立　誠）

成熟と喪失　―母の崩壊―

江藤　淳

河出書房　650円

「成熟と喪失」がどう結びつくものなのかこの疑問が本を手にさせた理由である。

「成熟することは、なにかも獲得することではなくて、喪失を確認することだ」ということばは、妙に安心感を与えてくれた。すなおに実感につながるようにも思えた。

「いま」に生き、「いま」を見ない生活をふりかえることの必要性をまざまざと、教えられた。

日本を見つめる自分と、その日本の中に生きる自分を自覚できたような気がする。

（秦梨小　内田　明夫）

おしらせ

岡崎の自然をみつめる理科展

―児童生徒の研究物がいっぱい―

現職教育理科部による児童・生徒の理科作品展が今年は名称も「岡崎の自然をみつめる」理科作品展と変わりレオを会場に十一月十五日から一週間に亘って開催されることになった。

●…ことしの特色は、岡崎の自然研究重視の方向を打ち出したこと、参加を自由にしたこと、父兄・教師の指導、助言を大切にしたこと等があげられる。

●…十月二十日現在作品三一四点（研究者五九六名）の申し込みがあり、この新しい試みが岡崎の緑と太陽の町づくりにも話題を提供するものと期待される。

・**期日**　11月15日～21日

・**会場**　レオ5階催事場

・**内容**　児童・生徒の理科研究物・理科工作物

特別出品として教師の岡崎の自然研究物（自然環境保全調査の樹木・コケ・ゲンジボタル・昆虫・地質など）

■**市内小中学校教職員体育大会**

岡教組、現職教委、校長会の共催で十一月十七日（土）午後一時から葵中運動場。

市内小中の教職員全員が一堂に会し、健康増進と親睦をはかるのが趣旨。附属、市教委関係も含めた全校を十ブロックに分け、陸上競技のほか玉入れ、綱引き、二人三脚リレー等の各種目に得点を競う。運営担当者は運動会シーズンの最後を飾るにふさわしい楽しい会にしたいと賞品等も用意して張り切っている。

【刊行あんない】

●**岡崎市の地質**

岡崎市地質調査研究会編

市内小中の理科教師のうち地学を専攻する十五名が十一年をかけた全国にも例のない労作。

地質学を背景に教育的内容を考えて「地質編」「地質案内編」の二つに分けられているが、わかりやすくするため写真や図表が多く入れてある。研究、指導資料としてだけでなく一般市民にも郷土岡崎をより深く知るための好個の読み物。十二色刷二万五千分の一地質図が貴重。B5クロス装、本文アート紙一二〇P、連絡先六名小磯谷栄一氏。

り文字どおり全員の参加をと望んでいる。

■**小学校の修学旅行**

市内小学校の修学旅行は、十一月二十七日から三十日にかけ三班編成一泊二日、奈良～京都のコースで実施される。

〔27～28日〕三島、連尺、大樹寺、秦梨、生平、細川、羽根、奥殿、岩津、恵田、男川

〔28～29日〕梅園、広幡、竜谷山中、藤川、本宿、矢作西、井田、福岡、六ツ美中部、六ツ美北部、六ツ美南部

〔29～30日〕根石、美合、愛宕常磐、常磐南、常磐東、岡崎、六名、矢作東、矢作南、矢作北

■**よい歯の児童生徒**

10月17日の審査会で決まった岡崎一の児童生徒は次のとおり。

小男＝深田実（根石）▼小女＝川口津代子（細川）▼中男＝犬塚克彦（東海）▼中女＝堀田秀実（美川）

48年度市内中学校卒業見込者の進学希望状況（9月15日現在の調査による）

●進学希望率

	卒業見込者	進学希望者	進学希望率
男	1561	1441	92.9%
女	1527	1413	92.5%
計	**3088**	**2854**	**92.7%**

※参考

	男	女	平均
46年度	88.1%	86.6%	87.3%
47年度	90.7%	89.1%	89.9%

●地域別進学希望者数（全日別のみ）

地区		希望者数
名古屋・尾張	県立、市立	10人
西三河	刈谷・安城・知立	94
	碧南・西尾・幡豆	13
	岡崎・額田	**2249**
	豊田・東西加茂	141
東三河	豊橋・豊川・蒲郡	135
計		**2642**

●学科別進学希望者数・率（全日制のみ）

学科（課程）名	希望者数	希望率
普通科	1477人	55.8%
工業科	397	15.0%
商業科	436	16.5%
家政科	283	10.7%
厚生(看護)科	2	0.1%
農業科	34	1.4%
水産科	6	0.2%
音楽科	5	0.2%
工芸科	2	0.1%

●進学先別進学希望者数

			男	女	計
県内の高校	公立高校	全日制	1338	1304	2642
		定時制	14	9	23
	私立高校		76	97	173
県外の高校			0	2	2
工高専　他			13	1	14
計			**1441**	**1413**	**2854**

●岡崎額田地区学校別希望者数（全日制のみ）

地区	高校名	希望者数
岡崎	岡崎・岡崎北高校	1030人
	岩津高校	250
	岡崎商業高校	421
	岡崎工業高校	335
額田	幸田高校	213
計		**2249**

※岡崎・額田地区への希望は85.1%

■49年度愛知県公立高校入学者選抜実施日程

主な日程	全日制	定時制
出願	2月21～28日	3月15～23日
志願変更	3月1～7日	3月25～27日
学力検査	3月16日	3月30日
面接	3月18日	3月30日
合格発表	3月22日	4月1日

※愛教大附属高校は公立全日制と同じ。

11月の行事

日	曜	行　　事
1	木	
2	金	
3	土	〈文化の日〉　小学校陸上競技大会（公園） 造形おかざきっ子展（4日まで東公園）
4	日	市民総合軟式庭球大会（県営コート）
5	月	県教委主事訪問（福岡中）
6	火	理科教育研究会（矢作中） 小学校ＰＴＡ指導者地区研究集会（幸田中央公民館）
7	水	新任教員研修会　　市学校保健大会（羽根小）
8	木	定例教育委員会
9	金	岡崎小学校研究発表会　県学校給食研究会（豊田市）
10	土	教頭合宿研修会（11日まで三河ハイツ） 県子ども会指導者研修会（知立東小）連尺小百周年記念式
11	日	常磐小百周年記念式　市スポーツ少年団大会 （東公園）　秋季市民総合卓球大会（市民体育館）
12	月	県教委主事訪問（藤川小）
13	火	三河教頭会 県学校視聴覚教育研究大会（蒲郡三谷中）
14	水	甲山中学校研究発表会 中学校ＰＴＡ指導者地区研究集会（婦人会館）
15	木	小中学校自然をみつめる理科作品展(21日までレオ)
16	金	
17	土	市教職員体育大会（葵中） 市子ども大会（市民会館）　岡崎市青年祭（18日まで）
18	日	市婦人レクリエーションバレーボール大会 （岡女高、葵、甲山）東公園写生会
19	月	定例校長会
20	火	英語教育研究会（葵中） 県心身障害児判別講習会（岡崎盲）
21	水	南中学校研究発表会　愛教大附属養護学校研究会 県小中生徒指導担当者連絡協議会（蒲郡中）
22	木	働く若人の卓球ナイトゲーム（20日から市民体育館） 県教委主事訪問（常磐小、常磐東小）
23	金	〈勤労感謝の日〉　植樹祭（東公園）
24	土	文化講演会（勝部真長氏）
25	日	秋季市民総合剣道大会（市民体育館） 市民マラソン大会（県営グランド）矢作北百周年記念式
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	教育委員学校訪問（奥殿小、葵中）
30	金	

窓

加茂健三

運動会がすみ、文化的な催しが行事表にのぼる季節となった。いま子どもが手がけている作品や研究には、子どもと親と教師の心が通い合い、それぞれに歳月があり、いのちが燃えている。

郷土の彫刻家鈴木政夫氏は、「石は槌と鑿で打つものである。この時発するチンチンという音は、石が歓喜の声をあげているのである。時間を惜しんで機械で截ったり磨いたりすると、石は苦しそうに泣く」と。

子どもの制作活動で、にわか、即席、無感動等は、心の素肌を傷つけ、いのちを蝕むものでしかない。不幸にも活動の乏しいところほど、その時になって奇を衒い、解剖実験と称して、小犬を供しようとするが如き科学クラブが現われたりする。

ひと鑿ごとに心を刻んだような作品が会場に満ち、終日親子で鑑賞し楽しむという文化祭等の原点を再度確かめたいと思う。

（南中）

編集後記

●…「おかざきっ子展」が十年を迎えた。この造形展は、もう定着したことばにもなった。今年は、場所も新しく東公園に移し、大展示会となる。期待したい。

●…もうひとつ、芸術の秋。二科会でご活躍の鈴木幸生先生と、書家の神谷葵水先生の、おふた方の玉稿をいただいた。

●…修学旅行をふりかえってみた。毎年くりかえす行事のようであるが、長い間には、こんなにも変遷があったんだなと知る。資料を求めて歩いた編集子の手もとには、記事にしないたくさんの記録が集まった。

●…今月号のカットは、三島小学校の鈴木正純先生にお願いした。